

氏名： 中村 美奈子 (NAKAMURA Minako)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 芸術学士 (東京藝術大学)、人文科学修士 (お茶の水女子大学)
専門分野： 民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー
URL： <http://buyou1.li.ocha.ac.jp/Nakamura/index.html> / <http://www.li.ocha.ac.jp/geijutsu/buyou/>
E-mail： nakamura.minako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

舞踊人類学 / 舞踊記譜法 / 舞踊動作分析 / インドネシア / 舞踊アーカイブ
DanceAnthropology / Labanotation / MotionCapture / Indonesia / DanceArchive

◆主要業績

総数 (6) 件

- ・中村 美奈子, 小田 邦彦, 米力尼沙 満蘇尔共著: 「モーションキャプチャを用いた舞踊における運動の質の評価の試み—ウイグル舞踊の基本歩行動作と旋回動作を事例として—」『情報処理学会研究報告』2006-CH-78(5) 情報処理学会, 2008年5月, pp31-36
- ・小田邦彦, 中村美奈子, 小島一成: 「舞踊動作の質的評価の試み」第2回身体知研究会, SIG-SKL-02, 2008年11月, pp.7-1
- ・NAKAMURA Minako, SHIBANO Kohji, KADO Yukito: "Developing a Digital Archive of the Works of Ms. Tastue Sata, a leading Japanese creator of Modern Ballet", An International Conference: Body, Movement and Dance in Global Perspective, Hong Kong, 2008, July
- ・ORCNANA 研究発表会「舞踊の教育システム: 身体の言語化—記号化—デジタル化」, 日本大学芸術学部, 2009年1月30日 (コメンテーター)

◆研究内容 / Research Pursuits

筆者は、インドネシア・バリ島の舞踊などアジア地域の民族舞踊を研究対象とし、その舞踊の技法、表現特性、舞踊構造の分析を行っている。2008年度は、新規課題である基盤研究 (C) 「日本の創作バレエ作家に関するドキュメンテーションとアーカイブ化—佐多達枝を中心に」の研究代表者として、舞踊のアーカイブ作成に関する資料収集を行った。香港で開催された国際会議「An International Conference: Body, Movement and Dance in Global Perspective」において、佐多達枝の舞踊の制作過程に焦点を当てたアーカイブ制作に関する口頭発表を行い、参加者らと意見交換を行った。また、立命館大学 GCOE の客員研究員として、モーションキャプチャによるウイグル舞踊とバリ舞踊の比較検証を行い、学内科研 (研究費) では、バリ島におけるヨーガの資料収集を行った。

I am studying the dance technique and structure of Balinese (Indonesian) dance and Balinese Yoga.

I have been taking part in the COE research project in Ritsumeikan University as a COE guest researcher and studying "dance and technology" for about 5 years.

And also, I read my paper on "Developing a Digital Archive of the Works of Ms. Tastue Sata, a leading Japanese creator of Modern Ballet" at An International Conference: Body, Movement and Dance in Global Perspective, held in Hong Kong.

◆教育内容 / Educational Pursuits

舞踊教育学コース所属の学生らは、そのほとんどが、バレエやモダンダンスなど西洋の芸術舞踊を実践してきている人たちである。筆者の教育目標は、さまざまな身体表現、舞踊表現が世界には存在すること、また、舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた表現様式をもっていること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能をも果たしていることを講義や実技を通して学生に伝えることである。2008年度は、専門教育に加えて、前期に「基礎ゼミⅠ」、後期に「舞踊における色・音・香」と21世紀型文理融合リベラルアーツの教育にも積極的に取り組み、朝鮮舞踊の舞踊家（金剛山舞踊団）や能楽師など、実演者を招いての文化と舞踊を考える授業を行った。

また、大学院の授業では、民族舞踊学（舞踊人類学）を主専攻とする院生がいたので、Drid Williams 著「Anthropology and the Dance」の文献の購読を行い、舞踊学者と文化人類学者との考え方の違いなどについて考察した。

Most of the students in our dance education course only know Western dances such as Ballet or Modern dance. I am teaching those students that there are many more kinds of dances which have their own cultural background and that some of them do not appear artistic but perform a social function.

In 2008, in addition to those lectures and practices, I gave a special lecture on Korean dance with live performances by Kumgangsán Opera Troupe. (The educational program on qualitative and quantitative Liberal Arts)

To the graduate students I gave a lecture on "Anthropology and the Dance".

◆研究計画

文化人類学から情報学までさまざまな領域の研究者らとの学際研究を通じて、舞踊および身体表現に関する研究を行ってきた。今後も幅広く身体文化、身体表現、身体運動の解明にかかわる研究をしていきたいと考えている。また、無形文化財のデータベース（アーカイヴ）化、特に舞踊や身体表現に関するデータのアーカイヴ化についての研究は事例が少なくメタデータの整理も進んでいないことがプロジェクト研究を通して分かってきたので、これらの点についても検討を行っていきたい。

◆メッセージ

舞踊は、その社会文化的背景と深く結びついた多様な表現様式があること、そして、舞踊は芸術的なものだけではなく、民俗芸能のように社会的な機能持つものもあることを是非みなさんにも知ってもらいたいと思っています。同時に、バリ島の舞踊は見ていると緩やかで楽しそうですが、実は中腰の姿勢で踊るのはいかにきついかということを是非実技授業で体験してください。「伝統的」な舞踊の研究をしている私ですが、実は大変な新しいもの好きで、共同研究のほうでは、1998年頃からずっとモーションキャプチャという装置で舞踊の3次元計測をしてきています。舞踊とデジタル技術がどうつながるのだろうと不思議に思われる人もいますが、この方法論は、現在では、舞踊学の一分野のようになっています。